



第91号
2015年8月10日発行
三輪田学園中学校高等学校
発行 入試広報室
千代田区九段北 3-3-15
Tel. 03(3263)7801

1学期終業式

”Respect for Others”

～常に敬意をもって、他者に接すること～

吉田校長

7月18日、1学期終業式が行われました。三輪田学園では、始業式・終業式は中高すべての生徒が講堂に一堂に会します。挨拶のあと、校長からの式辞がありました。今回の話題は2つ、「コミュニケーションの極意とは何か」と「歴史の証人としての自覚を持つ」ということでした。



現在、あらゆる場面でコミュニケーション能力を高めることが求められています。これは、グローバル化が過速的に進むこれからの社会では、これまで以上に様々な人との繋がりが重要になってくるということです。校長は、「将来を見越して点と点を繋ぐことはできない。できるのは、過去を振り返って点と点をつなぐことだけ。だから、今やっていることが将来どこかで別の点とつながるとい信念を持たなければならない。」という、スティーブ・ジョブスの言葉を紹介しました。「コミュニケーションも人と人を結ぶ、という点は同じ。この出会いが将来の自分とどこかでつながるかもしれないと考えれば、他の人との接し方にも同然配慮が加わってくるはず。そのために忘れてはならないのは、”Respect for Others” (他者に対して敬意を持つ) です。これがコミュニケーションの極意です。」と校長は述べました。

もう一つの「歴史の証人としての自覚」は、18歳以上に選挙権が持てるようになったことに関する話でした。「戦後70年の今年、若者の声を政治により反映できるようになったのは素晴らしいこと。しかし権利を得たら、それを正しく行使することができなければ意味がない。今、歴史が大きく動こうとしているが、私たちは単なる歴史の傍観者ではなく、今を生きる主体的な歴史の証人です。正しく権利を行使するために、様々な情報の中から何が真実かを見つける力をつけていってほしい。」

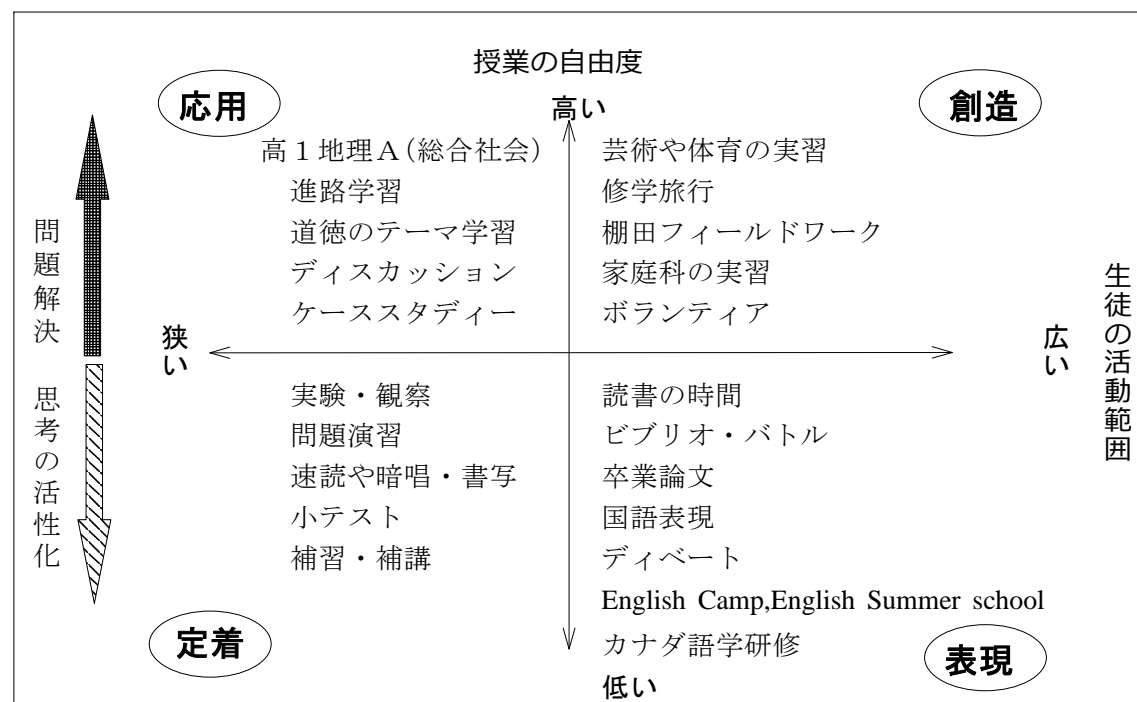


講堂で終業式

三輪田のアクティブ・ラーニング



2020年実施の大学入試改革に合わせて、教育界で話題になっているのがアクティブ・ラーニングです。直訳すれば「能動的な学修」となり、学びの主体である生徒が主体的に活動することで学ぶという学修方法です。ですので、黒板に向かって静かにノートをとる…という従来の学習スタイルと大きく違います。今この学修方法がなぜ注目を集めているかという、今後の社会の変質に合わせて、学びの質的転換が求められているからです。人工知能が高度に発達する社会では、現在人間が行っている作業の大半はロボットで代替できるといわれています。人間でなければできないのは、創造性や想像力を必要とする分野です。創造性や想像力を鍛えるには、受動的に学ぶことだけでなく、学習者の経験を増やすことや協働学習が効果的といわれていますが、これまで三輪田で行ってきた教育活動の中にも、アクティブ・ラーニングがたくさん取り入れられています。三輪田では、それぞれの授業に目的・育てたいチカラが設定されており、一番適した授業スタイルを選択して行ってきました。それらをまとめたのが下の図です。



机に向かって静かにノートをとることが、正しい学ぶ姿勢と考えられていました。最近の研究では、ただ黙って聞いているだけより、友人同士で教えあったり、実際に実験や実習をした方が遙かに定着率が高いといわれています。しかし、それらも基礎力がしっかり付いていることが条件になります。講義をきちんと聴く中でしっかり学ぶということも当然必要な学習といえるでしょう。これからも、従来型の授業とアクティブ・ラーニング両者の良いとこ取りの授業展開をしていきます。

保護者もアクティブ・ラーニング ～三輪田教育サロン～

(3)

お父さんも参加

三輪田学園では、有志保護者の皆様と教育問題について語り合う「三輪田教育サロン」を年5回開催しています。7月のサロンのテーマは『5年後の社会で、子どもたちに求められる力は何か』でした。通常では校長からの問題提起の講演があり、その後グループごとにディスカッションになりますが、今回は保護者の方々にアクティブラーニングの形でこの問いへの答を一緒に考えていただく会になりました。



オリンピックがすんだ5年後の社会、日本はどのようになっているのでしょうか。今回のサロンでは、まず、現在の子どもたちにあってほしい力、望ましい性質などを付箋を使ってあげてもらい、それを妨げる現状についてもピックアップしてもらいました。続いて校長から人口推移を示すグラフ、国債残高の推移、経済再生の政府予想、2020年の大学入試改革に関する資料などが配られ、それぞれについての説明がありました。その後、5年後10年後の社会を予測してもらい、その時に必要な力を最初に作成した付箋の中から選んで貼り替えてもらいました。付箋を貼る模造紙は、「社会の変化」「経済の変化」「技術の変化」「文化の変化」の4つのカテゴリーに分けてありますので、どの項目にも必要と思われる力が浮かび上がってきます。どのグループも「コミュニケーション能力」「やさしさ」「忍耐強さ」「誠実さ」などが必要という結論になったようです。参加した保護者の方は「ただ講義を聴くよりも、自分の問題としてより身近に子どもたちの生きる社会を想像できた。こういう体験はとても貴重です。」と話してpいました。

8月～9月の学校紹介イベント

要予約のイベント ……学園HPにてご予約受付中!

★ ミニ学校説明会…保護者対象、60名限定 10:00～11:30
9/29 (火) メインテーマ: 問題解決に導く論理力の育成

予約
受付中

★ 生徒会主催 わくわく冒険ツアー (クラブ体験)
8/17 (月) 13:00～15:00

★ オープンスクール 9月21日 (月・祝)

★ 校長と入試問題にチャレンジ第1回 9月12日 (土)

30日前から
予約受付

トピックス

Japan Ambassador Development Program

(4)



7月18日、英会話クラブの部員が英語で浅草を案内するツアーが行われました。このツアーJapan Ambassador Development Programは、実際に臨機応変に英語を使いながら、外国のお客様をおもてなしする練習が目的のプログラムです。英会話スクールの先生がもてなされる外国のお客様役になり、指導していただきました。

現在英会話クラブには15名の部員がおり、毎年三輪田祭で英語劇を上演するなど活発に活動しています。まず、学校でワークシートを使って先生との顔合わせや行程などの説明があり、その後地下鉄に乗って皆で浅草へ。浅草寺や仲見世などを英語で紹介しながら見学しました。最初は緊張していた生徒たちも、案内しているうちに先生ともだんだんうち解け、最後は皆笑顔で雷門の前で集合写真を撮る。グローバル化が進む中、一人一人がアンバサダー(大使)として外国の方を迎える日がやってくるかも。参加した生徒たちには、その準備ができてきたようです。

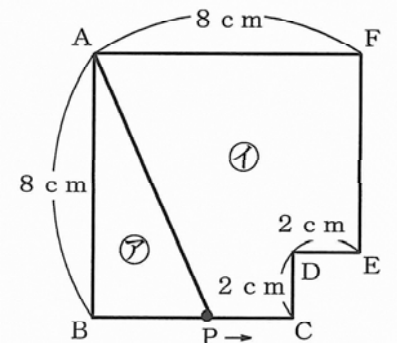


第2回算数の問題より(部分)

三輪田の入試問題にチャレンジ

問い

右の図は1辺の長さが8cmの正方形から1辺の長さが2cmの正方形を切り取った図形です。点PはBを出発して、毎秒1cmの速さで辺上をB→C→D→E→Fの順にFまで動きます。直線APで、この図を二つの部分①、②に分けます。



- (1) 点PがBを出発してから7秒後の①の面積は何 cm^2 ですか。
式:
- (2) 点PがBを出発してから12秒後の①の面積は何 cm^2 ですか。
式:
- (3) ①の面積が②の面積の4倍になるのは、点PがBを出発してから何秒後ですか。
式:

答え:(式略) (1)27 cm^2 (2)44 cm^2 (3)13秒後